

阿東地域づくり協議会

★活動の概要

今年度から中期5か年計画を基に、5地区と阿東の2本立てで事業を進めています。ホームページを作り情報発信をしています。

★交付金額

15, 242, 556 円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	6, 641人
世帯数	3, 042 世帯
地域の キャッチフレーズ	美緑あるまちづくり、考えてみ よういね、やってみよういね

※数値は、平成25年3月31日現在のもの

■ 高岳登山道整備

10月7日、阿東最高峰「高岳山」に、ボランティア21名に参加していただき山頂まで1合目、2合目・・・展望台と10枚の案内板を設置しました。登山道も整備し案内図も取り付け、登山しやすくなりました。



■ わたりがわ泥おとしフェスタ

渡川自治会が自主防災組織を立ち上げ、そのお披露目に「わたりがわ泥おとしフェスタ 2012」を開催しました。非常炊き出しの実習、消防訓練、非常食の試食など行いました。またチェンソーアートの実演や子供みこしなど多彩な催しでおおいに賑わいました。



■ 嘉年ふれあいコンサート



地域住民と嘉年小学校との交流を深めるため、テーマソング「どう嘉年、好き嘉年、元気嘉年」を作曲した兄妹デュオを招いて、ふれあいコンサートを開催しました。最後は参加者全員で輪になって手をつなぎ、合唱で幕を閉じました。



■ 情報誌発行

地域広報誌を隔月発行しました。



■ ほほえみの郷トイトイ支援

地域の拠点づくり事業として地福地区にオープンした「ほほえみの郷トイトイ」の支援をしました。店舗としての機能だけではなく、地域住民の交流スペースを設け、地域コミュニティの充実を図りました。



■ グラウンドゴルフ大会

第1回阿東地域づくり協議会会長杯グラウンドゴルフ大会を開催しました。地区内から84名の参加があり、勝敗にこだわらないことをモットーに、健康増進と生き甲斐を高めるため楽しくプレーしました。ホールインワンも飛び出し盛況に終わりました。



徳地地域づくり協議会

★活動の概要

平成21年6月に徳地地域づくり協議会を発足し、自治会と地域で活動している団体と協働して地域づくり活動に取り組んでいます。

★交付金額

20,439,980円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	6,730人
世帯数	3,038世帯
地域の キャッチフレーズ	豊かな自然と里山が調和した やすらぎとふれあいのまちづくり

※数値は、平成25年3月31日現在のもの

■ 地域交流事業

毎年11月の第1日曜日に、「活力と潤いに満ちたふるさとづくり」を目指し、地元住民はもとより都市部の住民との交流を深め、地域の活性化を図るために「山口市徳地フェスティバル」を開催しています。



■ 広報活動

徳地地域の情報発信を行う地域広報紙「ふるさととくち」を地域住民(「徳地づくり達人塾」)とともに協働で作成し、毎月1回発行しています。

地域の情報収集については、取材から編集まで一括して地域住民が行っています。



■ 除雪サービス事業

平成24年度から高齢の方や障がいのある方が、通院や買物などの外出時に支障となる道路に面した出入口部分と玄関先までの通路部分の雪を地域の協力員が除雪する「除雪サービス事業」を開始しました。

地域づくり交付金で除雪機、スコップ等を購入しました。



■ 各地区での活動

徳地地域では、出雲、八坂、柚野、島地、串の各地区でもそれぞれ活動が行われています。

■ 健康増進活動事業

各地区の特色を生かしたウォークラリー、歩こう大会を実施し、地域住民の健康増進と他地域との交流を盛んに行っています。

スポーツを通じて地域住民の体力向上を図るとともに、住民同士の交流と地域連携を深めるための体育行事を実施しています。

※ 歩こう大会は、出雲、八坂、柚野、串地区で実施しています。



【今後の地域づくりに向けた思い・取り組み】

徳地地域は少子・高齢化や過疎化が他地域に比べて進んでおり、これまで培ってきた近隣の相互扶助、地域内の交流、祭りの継承など、様々な分野に影響が出始めています。

地域住民みんなで地域について考え、「住みやすく、いつまでも住んでいたい地域」を目指して今後も活動していきたいと思います。

仁保地域

仁保地域開発協議会

★活動の概要

集落点検で意見や要望をとりまとめ、当交付金の活用や関係機関と連携して課題解決や対策に取り組みました。

★交付金額

9,106,000円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	3,282人
世帯数	1,372世帯
地域の キャッチフレーズ	心が通う 住みよい地域づくり

※数値は、平成25年3月31日現在のもの

■ 地域を紹介し交流を促進する事業

仁保のイラストマップや名所写真コンテスト作品を利用した「仁保名所クリアファイル」を作成し、地区全戸配布や幼少中学校の児童生徒全員にも配布しました。

このクリアファイルは、繰り返し使用できるため、郷土への愛着と交流促進につながりました。



■ 郷土愛を育む事業

仁保今昔写真集を発行

明治から現在までの仁保の移り変わりをまとめた写真集を発行しました。

(写真集は80ページ、250枚の写真を掲載)



自分たちの住んでいる地域の歴史を知ることにより、郷土愛を育むとともに多くの郷土出身者からも大好評でした。

■ 見るまつりから参加するまつり事業

仁保大農業まつりで40mの巻き寿しづくり

仁保大農業まつりの40回を記念して40mの巻き寿しづくりをしました。

(道の駅「仁保の郷」)



巻き寿しを巻く者、応援する者、3,000人が参加したイベントは地域の一体感を醸成し、地域づくりの大きな原動力となりました。

■ サルを追い払う事業

サル被害防止活動を支援

(花火による追い払い研修)



仁保地区の山間部はサルが出没し、農作物に大きな被害を与えています。

そこで、被害対策協議会の見廻活動や追い払い活動を支援しました。その結果、被害の軽減と拡大防止につながりました。

■ 人口定住を促進する事業

空き家対策で先進地研修を実施

(周南市大道理地区での研修)



仁保地区では近年空き家が増加し始めたため、人口定住を促進するため、2月に周南市の取り組みについて視察研修を行いました。

(自治委員・民生児童委員・JA女性部など40名が参加)

今後、空き家等を利用した人口定着のための体制づくりに取り組む計画です。

■ 郷土料理を伝承する事業

レシピ本を作成配布



現在は、家庭で昔ながらの料理を作る機会が少なくなりました。そこで、身近な食材を使った伝承料理のレシピを山口県立大学のご協力をいただき作成し、仁保地区全戸に配布しました。

また、学校給食にも活用いただきました。

小鯖地域づくり協議会

★活動の概要

中・長期の「小鯖地域づくり計画」の策定に注力し、今後の方向付けを行いながら、5専門部会を中核とした活動を種々展開しています。

★交付金額

9,406,420円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	4,617人
世帯数	1,974世帯
地域の キャッチフレーズ	自然豊かで 安心して暮らせる小鯖

※数値は、平成25年3月31日現在のもの

■「小鯖地域づくり計画」の策定

「これからの小鯖地域づくり計画」を見直すに当たり、総合計画構築委員会(委員:9人)が中心となり、5月にアンケート調査を実施、その結果を踏まえ、11月に住民座談会を開催し、さらに意見を集約した上で、25年度以降の「小鯖地域づくり計画」を策定しました。



アンケート調査結果からの主な課題

項目	希望する方(人)	希望しない方(人)	希望する割合(%)
1. 小鯖地区の活性化	4,517	100	97.8
2. 小鯖地区の環境整備	4,417	100	97.8
3. 小鯖地区の防災対策	4,317	100	97.8
4. 小鯖地区の文化・スポーツ振興	4,217	100	97.8
5. 小鯖地区の福祉・高齢者対策	4,117	100	97.8
6. 小鯖地区の観光振興	4,017	100	97.8
7. 小鯖地区の交通・アクセス改善	3,917	100	97.8
8. 小鯖地区の産業振興	3,817	100	97.8
9. 小鯖地区の教育・子育て支援	3,717	100	97.8
10. 小鯖地区の健康・医療対策	3,617	100	97.8
11. 小鯖地区の防災・安全対策	3,517	100	97.8
12. 小鯖地区の文化・芸術振興	3,417	100	97.8
13. 小鯖地区のスポーツ振興	3,317	100	97.8
14. 小鯖地区の福祉・高齢者対策	3,217	100	97.8
15. 小鯖地区の観光振興	3,117	100	97.8
16. 小鯖地区の交通・アクセス改善	3,017	100	97.8
17. 小鯖地区の産業振興	2,917	100	97.8
18. 小鯖地区の教育・子育て支援	2,817	100	97.8
19. 小鯖地区の健康・医療対策	2,717	100	97.8
20. 小鯖地区の防災・安全対策	2,617	100	97.8
21. 小鯖地区の文化・芸術振興	2,517	100	97.8
22. 小鯖地区のスポーツ振興	2,417	100	97.8
23. 小鯖地区の福祉・高齢者対策	2,317	100	97.8
24. 小鯖地区の観光振興	2,217	100	97.8
25. 小鯖地区の交通・アクセス改善	2,117	100	97.8
26. 小鯖地区の産業振興	2,017	100	97.8
27. 小鯖地区の教育・子育て支援	1,917	100	97.8
28. 小鯖地区の健康・医療対策	1,817	100	97.8
29. 小鯖地区の防災・安全対策	1,717	100	97.8
30. 小鯖地区の文化・芸術振興	1,617	100	97.8
31. 小鯖地区のスポーツ振興	1,517	100	97.8
32. 小鯖地区の福祉・高齢者対策	1,417	100	97.8
33. 小鯖地区の観光振興	1,317	100	97.8
34. 小鯖地区の交通・アクセス改善	1,217	100	97.8
35. 小鯖地区の産業振興	1,117	100	97.8
36. 小鯖地区の教育・子育て支援	1,017	100	97.8
37. 小鯖地区の健康・医療対策	917	100	97.8
38. 小鯖地区の防災・安全対策	817	100	97.8
39. 小鯖地区の文化・芸術振興	717	100	97.8
40. 小鯖地区のスポーツ振興	617	100	97.8
41. 小鯖地区の福祉・高齢者対策	517	100	97.8
42. 小鯖地区の観光振興	417	100	97.8
43. 小鯖地区の交通・アクセス改善	317	100	97.8
44. 小鯖地区の産業振興	217	100	97.8
45. 小鯖地区の教育・子育て支援	117	100	97.8
46. 小鯖地区の健康・医療対策	17	100	97.8
47. 小鯖地区の防災・安全対策	17	100	97.8
48. 小鯖地区の文化・芸術振興	17	100	97.8
49. 小鯖地区のスポーツ振興	17	100	97.8
50. 小鯖地区の福祉・高齢者対策	17	100	97.8



■ 小鯖健康ガイドウォーキング(萩往還)

小鯖地区内の旧跡や神社寺院等およびウォーキングコースを記載したマップを作成し、10月14日に「小鯖健康ガイドウォーキング」を実施しました。小鯖地区内を縦断する「萩往還」約3kmのコースを約30名の参加、専門ガイドを聞きながら楽しく歩きました。



■ 小鯖ふるさとまつり

地域住民が一堂に会し、ふるさとを愛し、ともにふれあう機会として「小鯖ふるさとまつり」を開催しました。

今年度は、その2週間前から「小鯖イルミネーション」を飾り付け点灯し、まつりムードを高め、当日は活動団体等の様々なコーナーが設けられるなど、総合的な文化活動として一層盛り上がりのあるまつりとなりました。



■ 防災・救急の講習会

8月5日に防災教室を開催しました。「小鯖」地区として考えられる「自然災害」について非常に身近に考え、貴重な内容の講習会になりました。また、11月10日に「初期の救急処置法：心肺蘇生法、AED 操作」について実技を交えながらの講習会を実施しました。



※ 今後に向けての地域の思い、取組みなど

新たなキャッチフレーズ「自然豊かで、安心して暮らせる小鯖」の地域づくりを目指し、一人でも多くの住民が積極的に、自然に参加しやすい環境を作り、多くの住民の声が反映された活発な活動を展開して行きたいと思います。

大内地域

大内まちづくり協議会

★活動の概要

大内まちづくり計画（５ヶ年）の実施２年目で今年度から始まる事業も全て実施することが出来ました。

★交付金額

14, 595, 797円

★地域の情報（地域づくり協議会単位）

地域人口	23, 264人
世帯数	9, 397世帯
地域の キャッチフレーズ	ふるさとを愛し、笑顔 でふれあうまち大内

※数値は、平成25年3月31日現在のもの

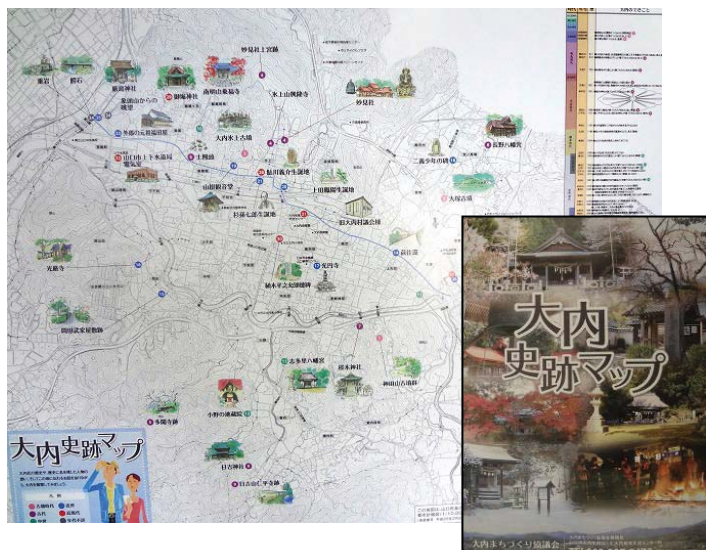
■ 大内歴史案内図作成（史跡マップ）

編集委員会を設置し、大内地域内の史跡を調査し、マップの作成を行い、その間に編集委員会を9回開催しました。

詳細な史跡マップの他、地域に伝わる民話、山口十境詩、年表などを刷りこみ完成度の高いものができました。

当初、全戸配布を予定して1万部の印刷を計画していましたが、地域内の学校でも使用できるように増刷し合計2万部印刷しました。

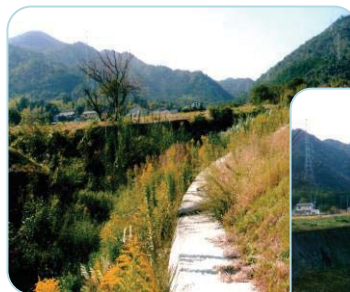
今後は史跡マップを活用したまちづくりの事業を展開する予定です。



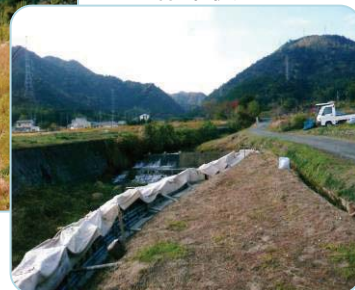
■ 河川美化活動

大内地域内にある仁保川・榎野川など5河川を対象として、草刈りなどの河川美化活動を年2回実施した町内会に助成金を交付しました。

春と秋に実施され、川土手や河川敷の除草が行われました。13町内、約400人が参加しました。



作業後



■ 標語看板・ポスターの作成

大内地域の小中学校3校に、安心安全の啓発活動を促進するために標語を募集しました。優秀作品は大内中学校の美術部員の協力を得て看板を作成し、青少協メンバーと共に60枚の看板を作成しました。作成した看板は各自治会で通学路に設置しました。

挨拶をテーマにした標語を大内中の2年生と大内小・大内南小の5年生全員に依頼し、優秀作品を24題使用しポスター・カレンダーを作成しました。

自治会や小中学校、幼稚園などに配布し1年間活用を行いました。



■ 大内まちづくり事業等の情報共有事業

大内まちづくり協議会のホームページが出来上がり平成24年度末に公開ができました。

地域の情報が共有できる体制が整いました。

まちづくり協議会の情報や地域交流センターの情報を中心に地域に密着した情報の提供を行いたいと考えています。写真や動画も活用して楽しいものに作り上げていきます。



ホームページの更新を地域の人々ができ、身近な情報源に感じられるものに育て上げていきます。

山口市宮野地区地域づくり協議会

★活動の概要

「安心して住みやすい宮野地区」を目指し、高齢化社会を見据えての子どもから高齢者までの世代を超えた交流活動を行い、地域課題の解決に向けて地域づくり活動推進を図ります。

★交付金額

9,950,867円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	15,436人
世帯数	6,675世帯
地域の キャッチフレーズ	みんなに、やさしい、 のびゆくまちづくり

※数値は、平成25年3月31日現在のもの

■県立大生による「着物喫茶&まち歩き企画」

地域交流ステーション宮野(JR 宮野駅舎)が “安らぎの空間”着物カフェに！！

平成23年度に大学のプロジェクトとして実施し、地元の皆さんより大変好評だった「着物喫茶&まち歩き企画」を地域づくり協議会の事業として実施しました。

着物喫茶では、着物姿の学生が和菓子と抹茶でもてなし、コミュニケーションを深めました。着物を着る機会が少なくなった昨今、着物の良さをあらためて地域の人たちに認識してもらいました。大学のサークルも参加し賑やかな交流スペースです。

また、地域住民も忘れかけていた、名所・旧跡を学生ガイドが案内してくれました。

7月・10月・11月と3回開催し市外からのお客様も多く来られています。



■防災訓練キャンプ

防災対策事業の一環として

宮野っ子が避難所生活を模擬体験

防災意識を高めるため、小学生高学年の子ども達と地域住民の有志で一泊二日の行程で避難所生活を体験しました。災害の恐ろしさを再認識する機会となり、講習会・体験学習・非常食の試食・炊き出し訓練等をおして貴重な体験をしました。県立大学生によるボランティア活動の報告など子ども達には貴重な時間となりました。

模擬体験でしたが、皆の意識改革に効果があり継続することとしています。



■世代間交流事業

○三世代グラウンドゴルフ大会

地区明朗会の皆さんの指導により、秋空のもと楽しい・気持ちよい汗をかきました。

子ども・大人・高齢者の混合チームで団体戦・個人戦で熱い大会となりました。



○初春 運だめしふれあいボウリング大会

だれもが気軽にできる「ボウリング」をふれあいの場としました。適度な運動であるため、多くの参加者があり、シニア世代は昔を懐かしみハッスル！

ゲームを楽しみ、世代間交流は十分成果があげられました。



■健康推進事業

生涯現役！！街道ウォーキングに挑戦！！

自然とふれあい、教養を深め、体力づくりと親睦を深めました。ウォーキングブームのなか、宮野地域を縦断する「石州街道(旧道)」10^{キロ}を散策し、さわやかな汗を流しました。



■みやの歴史、文化、自然写真コンテスト

第3回 みやの歴史・文化・自然写真コンテストを開催

宮野の名勝・旧跡・文化及び自然を表現し、宮野地域を広くアピールできる作品を募集しました。

地域の素晴らしさを表現した、写真70点が20人の皆さんから応募がありました。

出展作品数は過去最高で、審査員をうならせる作品もありました。地域の隠れた名所や四季折々の作品が出品され、2月に開催した写真展では、多くの皆さんが観賞されました。

引き続き写真コンテストの開催により、地域の皆さんに宮野の良さを再認識していただき、地域の活性化に活用していきます。



【今後に向けての地域の思い、取組み】

安心・安全な地域づくりを基本に、地域住民が意欲を持って取り組める課題の解決に向けて、地域づくり活動を展開していきます。

おおどのコミュニティ協議会

★活動の概要

過去の3年間を振り返り、「課題解決のための計画を立て、新たな活動を創り出す」ことをめざしました。

★交付金額

8, 229, 000 円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	7, 712人
世帯数	3, 860世帯
地域の キャッチフレーズ	ゆったり にっこり きらり

※数値は、平成25年3月31日現在のもの

■ 地域コミュニティを見直す事業

「策定委員会」「明日のコミュニティを考える会」



基本に戻ってみる

意見を出し合ってみる



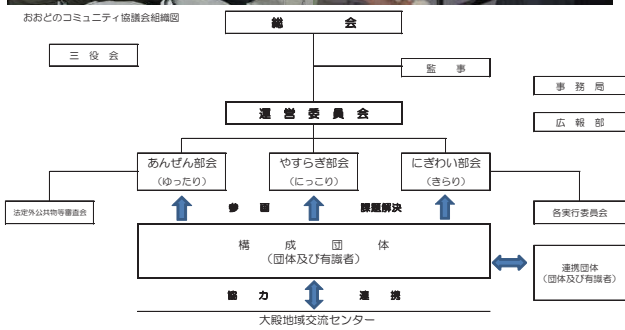
意見をまとめてみる

優先順位を決めてみる



意見の共有をはかってみる

時には楽しんでみる



地域課題解決のための会則・組織作りについて、24回の会議を経て、納得いくまで話し合いました。ボトムアップ体制の基盤づくりをしました。結果として、この会議はリーダー研修の役割を果たしました。

■ 地域の創世を見直す事業



灯の儀式的始まり

吊いの灯の出発

遂に商店街に灯が

心の灯が全市に

繋がる灯の流れ

子どもたちも火起こし体験

みんなが楽しみ、参画できることを柱にした「つながる大殿七たちょうちんの灯」事業を実施しました。

ついに大市の中央商店街につなぐことができました。

軒先ちようちん・大殿七たちょうちん(ミニ提灯)で各家々、町内会を吊いの灯・祈りの灯、願いの灯として心の灯でつなぐ試みは、発展しながら進行しています。白石・湯田地区へとつなぐ灯の願いも込めました。

■ 安心安全を見直す事業

おおどの安心安全のつどい

昨年度の反省をもとに熱心な会議が繰り返されました



(安心安全委員会)

交通・防犯・消防・自主防災など、体験を通して安心安全に暮らすための意識高揚と啓発を目的とした、子どもから大人まで楽しめる会が開かれました。自主防災準備委員会とも連携して防災グッズも展示されました。

■ 世代間のつながりを見直す事業

「老いも若きもふるさと道中」



(健康福祉委員会)

健康づくりを目的とした地域の名所めぐりや、三世代交流親睦運動会等、多世代の交流による絆づくりを求める活動を行いました。

■ ふるさとを見直す事業

銅版画教室



地域の人材を掘り起こし、文化を通しての地域交流を推進しました。(文化体育委員会)

ふるさと研修 知りたい！古熊天神のいろいろ



「山口天神祭りのこれから」と題して課題と販賣いについて話し合い、未来を語り合いました。

出発してからの三年間は、悪戦苦闘の年でした。そして本年、「本来の地域づくり協議会の原点に立ち戻ろう」の声のもと、地域づくり計画を見直し、合意・共有の姿勢を重視した体制づくりに励んだ年でありました。「ゆったり、にっこり、きらり」としながら、真の自治力をつける、おおどのコミュニティ協議会の第2ステージへの夢を馳せています。

白石地区地域づくり協議会

★活動の概要

地域づくりの主体となり、地域のさまざまな団体と連携し、地域課題の解決に向けて積極的に取り組みます。

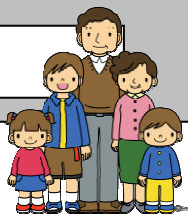
★交付金額

6, 838, 331 円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	10, 621 人
世帯数	4, 769 世帯

※数値は、平成25年3月31日現在のもの



■ シンボルマーク作り事業

本協議会を広く知っていただくことを目的とし、シンボルマークを広報紙、公式ウェブサイトを通じて公募しました。(平成24年9月20日～10月30日)

・最優秀作品1点

賞金3万円、お盆(桑原大内塗・大内人形製作所)

・優秀賞5点

賞金2千円、ういろう(御堀堂)

期間中、全国から計199点の応募がありました。シンボルマークの選考にあたっては、選考委員会を設け、厳正な選考を経て決定しました。

シンボルマークは、広報紙等、さまざまなところで活用していく予定です。



白石地区地域づくり協議会

■ 白石環境マップ作成事業

白石地区町内会連合会と、白石小学校 PTA 地区委員が連携し、地区内の危険箇所を調査し、危険と思われる箇所に注意喚起をうながす看板を16ヶ所設置しました。

対象は、地区内の小学生(おもに小学1年生)であるため、子どもの目線の高さに、伝わりやすい内容を心がけて作成し、注意喚起をうながすことにつながりました。



■ 地下道清掃事業

白石地区老人クラブ連合会が主体となり、毎月第3水曜日の15時から、地区内の地下道清掃を実施している事業です。

子どもたちの下校時間に合わせて、周囲の目が届きにくい地下道の清掃をしながら、見守り活動も行います。

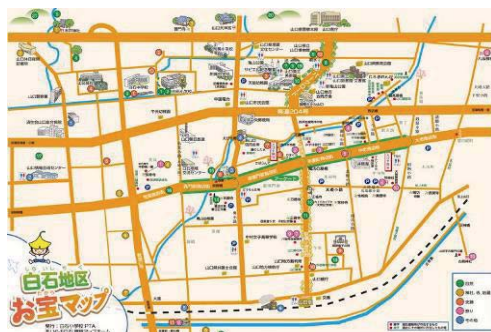
通りがかる小学生、中学生は「さようなら」「いつもありがとうございます」とはきはきと挨拶し、白石地区の道路環境だけでなく、子どもたちの情操にもよい効果がありました。



■ 白石環境マップ作成事業

白石小学校 PTA が主体となり、白石地区のお宝マップづくりに取り組みました。児童、保護者はもとより、地域の皆さまから「未来に残したい、伝えたい地域のお宝」についての情報を寄せていただき、マップとしてまとめたものです。マップには、愛すべき白石の「自然」「神社」「寺」「史跡」「祭り」「風景」等のお宝情報が満載。

マップは、白石地域交流センターにも置かせていただいて、無料で配布しています。



今後に向けての地域の思い、取組みなど

「地域づくりの主役は、白石地区の住民ひとりひとり」という基本理念を大切に、住民同士で共に考え、協力し合い、「住んでいてよかった」と思える白石地区を目指します。

湯田地区コミュニティ運営協議会

★活動の概要

本年も、高齢者や子どもの交流・福祉、環境美化等に関する事業を積極的に行いました。

★交付金額

8, 605, 575円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	12,613人
世帯数	5,647世帯
地域の キャッチフレーズ	優しく、美しい、誰もが、 安心するまちづくり

※数値は、平成25年3月31日現在のもの

■ 湯田ふるさとまつり

平成24年10月20、21日に湯田地域交流センターにて、第25回湯田ふるさとまつりが行われました。今回も、延べ3,000人の参加があり、大いに盛り上がりしました。



ポリネシアンダンス

25回を記念して、「ちひろミニコンサート」を開催しました。ちひろさんの澄んだ歌声を聴き、皆癒しのひとときでした。



ミニコンサートでのちひろさん

■ 自主事業 七卿落ち

七卿落ちから150年、湯田の歴史発掘と銘打って、松前了嗣氏による「七卿落ちと長州藩」の講演会(前編・後編 計2回)を行いました。



熱心に聞き入る受講生

七卿の一時滞在地、井上公園。
ゆかりの地です。



井上公園内にあります

■ 湯田地区町内親睦大運動会

平成24年5月13日に第48回湯田地区町内親睦大運動会が行われました。

合計14種目に渡る熱戦が繰り広げられました。



地域の底力(つなひき)



湯田地区もの知り王は誰だ？

■ 環境美化活動

地域にある公園や花壇、地下道の美化活動を推進しています。



■ 防災マップ作成

湯田地区防災マップを作成しました。

防災マップを見ながら自宅の周辺にどのような危険箇所があるか、避難所や連絡方法などを周知しました。



全戸配布前の様子

■ 青色防犯パトロール

青パト活動を行い、自主地域防犯に努めました。



今後に向けて

湯田の特色を生かす取り組みとして、平成24年度から七卿落ちの学習会をはじめました。

平成25年度も引き続き「七卿落ちウォーク」と称した屋外でのワークショップを展開する予定です。

また、地域の子どもたちとの地域間、及び世代間交流ができるような事業をすすめていきたいと考えています。

★活動の概要

吉敷地区の「防災元年」と位置づけ、安心安全なまちづくりを推進すると同時にテーマに沿った交流事業も開催しました。

ふるさと伝承事業は大学連携により今後の基礎づくりができ、成果が期待できます。速やかな地域づくり事業の実施のため組織の再編も行いました。

★交付金額

10,384,856 円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	14,668人
世帯数	6,116世帯
地域のキャッチフレーズ	笑顔あふれる ふれあいのまち

※数値は、平成25年3月31日現在のもの

■ 地区防災キャンプと先進地視察

9月、防災意識を高めるために親子防災キャンプを実施し、楽しみながら防災について研修しました。

起震車での地震の体験は、地震をあまり経験していない当地区住民にとっては、始め遊園地気分？でしたが、「実際揺れると怖いよね。」と、皆さん体験後は東日本大震災を感じられました。防災クイズにより、物資も心も備えあれば…の知識をたくさん得ることができました。

12月には周南市の桜木地区へ「先進地視察」に伺い、防災組織の立ち上げの重要性を強く感じました。帰路には、H21年、防府市右田で起こった土砂災害現場の近くまで足を運び、改めて自然の力の非情さに驚かされました。



■ 子どもの見守り事業



青少年育成部会が計画した「子どもの見守り」について、車に貼りつける「キッズガード」のマグネットシートと、110番の家の目印にする「プレート」と、セーフティジャンパーを作成し、関係者に配布しました。

車に貼られた「キッズガード」は、「さりげない毎日の見守り」を実現でき、犯罪等への抑止力につながると考えられます。

110番のプレートは、「こども110番の家」の再確認や開拓につながり、学校を含め地区全体で子どもの見守りができるようになりつつあります。今後、地区独自の110番の幟旗の作成への計画も上がっています。



■ あいさつ運動

ふれあいをテーマにした標語の募集を定期化し、その標語をふるさとだより「よしき」に継続的に掲載することにより、啓発に努めています。

また、情報共有やきっかけ作りを目的に当協議会のアドレスをデザインしたエコバッグも作成し、関係者に配布し利用していただきました。

エコバッグを広く配ることにより、それを持つ地区住民が様々な場面で、ふれあい、あいさつが飛び交うように働きかけています。



■ 世代交流事業

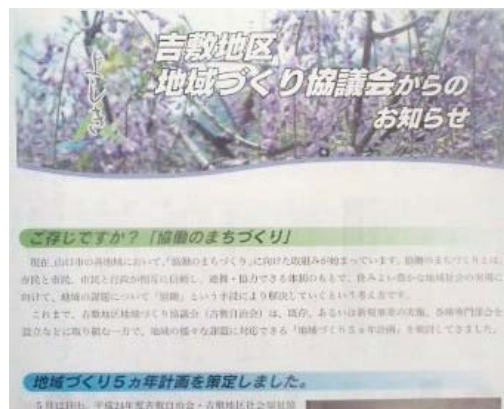
自治会、子ども会、老人クラブによる世代交流事業として、「グラウンドゴルフ大会」を新たに創設し、開催しました。

世代交流ができるように大人と子どもとのペアのチームを作り、一緒に競技が楽しめる地区独自のルールが好評でした。参加者による新たな交流も生まれ、当地区のテーマである「ふれあい」が実践できる機会となりました。

■ 地域づくり計画の策定

「笑顔あふれる ふれあいのまち」の実現に向けて地域づくり計画(平成24年度から28年度)を策定しました。

計画では、「地域振興」、「地域福祉」、「安心安全」、「環境づくり」、「地域個性創出」の各分野で様々な事業を展開していくこととしており、地区住民には、「協議会からのお知らせ」を全戸配布し、周知に努めました。



当地区に眠るふるさとに残したい地区の宝物の保存について、山口大学や県立大学との連携協力によって地区も大学もそれぞれの目的を果たし、ひいては人材育成や人材発掘につなげるために、大学と打合せを数回行い、実施のための土台を作りました。こうした成果の青写真が見えたことは、次年度からの事業の展開が大変楽しみに思われます。

また、事業の速やかな推進のために地区内の様々な団体の組織の立て直しと同時に、協議会の組織の再編を検討し、新たな運営体制において事業を推進していくことになりました。

平川コミュニティ推進協議会

★活動の概要

住民同士のつながりや交流を大切に、自分たちが考え、安心して暮らせる平川を目指して活動しました。

★交付金額

14, 003, 000 円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	19, 072人
世帯数	10, 070世帯
地域の キャッチフレーズ	つながる笑顔

※数値は、平成25年4月1日現在のもの

■ あいさつ運動・見守り

小学生の登下校時に、見守りを通して、あいさつ運動を行いました。また、見守りをしている団体と連携をとり、一緒に進めていこうという取り組みになっています。

今後は、自治会を始め、地域全体で交通安全と防犯に取り組むと同時に、交流へも発展していける取り組みにしていきます。



■ 自主防災組織づくり

24年度から、単位自治会から1名の自主防災委員を選出しており、自主防災委員、自治会長等を対象に6月、9月、10月、11月に、大学教授等による講演会を開催し、災害の実態や、自主防災組織のあり方などについて学びました。また、3月には、自主防災組織の組織づくりについて、検討しました。



■ 九田川生態マップ

平川地区の中心を流れる九田川に生育する魚の写真を撮り、看板を作成しました。

写真は、住民によって撮影された手作り感あふれる仕上がりになっており、設置場所の九田川土手では、様々な年代の人が立ち止まって見えています。今後は、鳥類や昆虫類、植物の撮影もする予定で、子どもや地域住民が自然や環境に関心を持つきっかけのひとつになっていければと思います。



■ 文化伝統をつなげる

徳地串地区へ行き、体験と交流を行いました。



平川まちづくりビジョンの作成に取りかかりました。24年度は、ワークショップを開催し、平川の現状について考えました。

■ スポーツを楽しもう！

スポーツを通じた交流と次世代育成を目的に、ストレッチ講座と三世代交流グラウンドゴルフ大会を開催しました。ストレッチ講座では、スポーツ少年団の指導者等が真剣にまた楽しく講座を受けました。三世代交流では地区内のいろいろな団体が連携して開催に取り組み、多くの参加者とともに和やかな雰囲気につつまれました。



■ 本物と触れ合う会

幼稚園にプロマジシャンを呼び、子どもたちに感動を与えました



大歳自治振興会

★活動の概要

単位自治会の活動を支援する事業を中心に推進し、地域づくりの基となる自治会の活性化や交流促進を図りました。

★交付金額

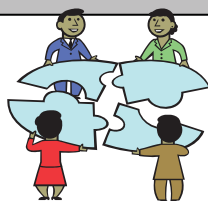
10,424,000円

★地域の情報(地域づくり協議会単位)

地域人口	13,253人
世帯数	6,194世帯
地域の キャッチフレーズ	みんなでつくろう明るく 住みよい おおとしを

※数値は、平成25年3月31日現在のもの

■自治会(地域)の活性化



地域のふれあいを目的とした活動を実施した自治会に対して支援を行いました。

自治会単位での交流事業が14自治会で取り組み、述べ1,000人以上の参加者があり、より一層自治会内での親睦が図られました。

今後は更に、実施自治会を増やすため、より実施しやすい支援方法を考えていきます。

■高齢者支援体制の充実

ふれあいいきいきサロンの立ち上げのきっかけづくりとして、出前サロンを開催し、サロンの立ち上げを推進できました。なお、1自治会でサロンが設立されました。

安心カードを昼間、一人になる高齢者にも配布し、緊急時の連絡等迅速に対応できるようになりました。今後もそれぞれの活動を継続し、支援体制をより充実していきます。



矢原第2住宅自治会の絵手紙づくりの様子

できあがった絵手紙は自治会内のお年寄りの皆さんにお届けしました。



和田自治会の出前サロンの様子



■ 地域の災害安全対策(自主防災)

今年も防災委員研修会を開催し、各自治会での自主防災組織設立に向けた支援を行い、新たに5自治会で自主防災組織ができ、合計9自治会となりました。また、「おとし防災の日」のイベントとして、防災講演会を開催し、防災グッズの展示、非常食の試食を行いました。今後も防災意識の高揚に向けて支援していきます。

防災委員研修会の様子



「おとし防災の日」防災講演会の様子



■ 犯罪の起こりにくい環境の整備



鴨原自治会の清掃作業の様子

自治会で生活道路や公園、用水路等を住民が一体となって行う大歳地区一斉清掃を行いました。今年で3年目になるこの事業もすっかり定着し、23自治会、2,174人の参加がありました。



黒川市自治会の土手の草刈作業の様子

■ 今後に向けての地域の思い

1自治会1事業等の活動を通じて、自治会の活動の活性化及び、交流の促進を図ります。

防災意識の高揚を図り、各自治会の自主防災組織立ち上げへの機運を高めます。

子どもを事件、事故から守るためにおとし見守り隊の結成を進めます。